
**ガイド等を介した訪日外国人旅行者からの寄付金収受による
地域の収益化モデル構築に向けた実証事業
【概要版報告書】**

令和8年3月

七十七リサーチ&コンサルティング株式会社
調査研究部

I. 調査等の概要

1. 調査目的

トレイルにおける歩道整備や環境保全等、受入環境整備のための大きな負荷が地域側にかかっているなか、地域の課題解決の方策の一つとして、来訪される旅行者に寄付等の支援を募ることに對し、理解が得られるための有効な取り組みをまとめ、東北地域のトレイルを活用した持続可能な地域づくりに向けたモデルを構築するために各種調査等を行う。



みちのく潮風トレイル



磐梯・吾妻・安達太良
ボルケーノトレイル®

2. 調査概要

(1) 調査実施箇所及びトレイルの特徴等

調査実施箇所	トレイルの特徴等	調査に関する連携
みちのく潮風トレイル	青森県、岩手県、宮城県、福島県の4県29市町村をつなぐ全長約1000キロメートルを超えるロングトレイルコース。東日本大震災からの復興に資するため環境省が策定した、三陸復興国立公園の創設を核とした「グリーン復興プロジェクト」の取り組みのうちの一つ。その最大の魅力は、海の景観をダイナミックに感じるスポットの豊富さであり、日本一美しい断崖やリアス海岸ならではの風景、恵み豊かな世界三大漁場など見どころが目白押し。	名取市、 みちのく潮風トレイル関係自治体協議会、 認定NPO法人みちのくトレイルクラブ、 NPO法人体験村・たのはたネットワーク、 (一社)大船渡地域戦略、 日本航空(株)東北支社
磐梯・吾妻・安達太良 ボルケーノトレイル® (安達太良エリア)	磐梯朝日国立公園に広がる3つの活火山と湖沼群をつなぐロングトレイル ハイキングルート。日本百名山にも数えられる「磐梯山(標高1816m)」、「吾妻山(標高2035m)」、「安達太良山(標高1700m)」をつなぎ、周囲に点在する古くからの温泉地や山小屋、キャンプ場などに泊まりながら「旅」としての山歩きを愉しむことができるルートであり、旅路の中で3つの活火山=VOLCANO(ボルケーノ)をめぐる事が可能。	二本松市、(一社)にほんまつDMO、 (株)インアウトバウンド東北、 安達太良・吾妻 自然センター

※環境省、安達太良・吾妻 自然センターHPから一部抜粋

(2) 調査等の流れ

① 調査内容

外国人旅行者へのアンケート調査	ヒアリング調査	先進事例調査
旅行者の属性、旅行形態、当該トレイルの強み・求めること、寄付に関する事等について調査	トレイルに係る整備、保全や寄付等の支援に対する考え方等についてヒアリング。併せて、連携先(みちのく潮風トレイル関係自治体協議会、二本松市)の協力により、デジタル及び募金箱による寄付を募り、旅行者の寄付に対する意向を調査	国内外の寄付事情や先進的な取組事例等について調査

② 調査結果の集約及びモデル構築

各種調査結果や事例調査等を踏まえながら、トレイルに来訪された旅行者への支援に対する理解促進に向けた有効な取り組みをまとめ、東北地域のトレイルを活用した持続可能な地域づくりに向けたモデルを構築。

本調査結果等を共有し、横展開を図るために、東北地域の自治体、DMO、旅行会社、トレイル関係者等向けにセミナーを開催。

Ⅱ. 調査等の内容

1. 外国人旅行者二一ス等調査

○トレイル等に来訪された外国人旅行者に対してアンケート調査を実施し、旅行者属性、旅行形態、当該トレイルコースの強み・弱み・求めること、寄付に関すること等について調査及び分析を行った。

(1) 調査対象

外国人旅行者

(2) 調査方法

調査用紙およびWeb回答（英語、中国語繁体字を用意）

(3) 調査地点

- ①「みちのく潮風トレイル」エリア
 - ・種差海岸インフォメーションセンター
 - ・北山崎ビジターセンター
 - ・大船渡温泉
 - ・名取トレイルセンター
- ②「磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル®」エリア
 - ・あだたら高原スキー場
 - ・浄土平レストハウス

(4) 調査期間

2025年9月～12月

(5) 回答者数

- ①「みちのく潮風トレイル」エリア103人
- ②「磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル®」エリア61人



II. 調査等の内容

1. 外国人旅行者二一ス等調査

(6) 調査結果の概要

検証事項		検証結果	
		「みちのく潮風トレイル」エリア	「磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル®」エリア
1. 属性	性別構成	● 男女ほぼ同数から回答を得た。	● 男性が多かった。
	年齢層	● 20代～60代まで同程度の構成。	● 若年層の割合が高い。
	居住地	● 欧米豪系旅行者52人、アジア系旅行者48人、その他3人。	● 欧米豪系旅行者14人、アジア系旅行者45人、その他2人)
	訪日経験	● 訪日リピーターの来訪が大半を占めているが、初訪日の旅行者も一定数（18.8%）確認できた。	● 訪日リピーターの来訪が大半を占めているが、初訪日の旅行者も一定数（14.3%）確認できた。
	トレイル経験	● 外国のトレイルを3カ国以上訪問した方が過半数を占めており、トレイル経験者が多い。初めての訪日は24.8%。	● 外国のトレイルを3カ国以上訪問した方が過半数を占めており、トレイル経験者が多い。初めての訪日は30.4%。
2. 旅行行動	訪問目的	● トレイルと観光をセットに訪問している回答が約8割。	● トレイルのみを目的とした回答が約5割。
	同行者	● 友人、夫婦またはパートナーとの訪問形態が多い。	● 夫婦またはパートナー、家族・親族が多い。
	旅行手配方法	● 個別手配が過半数だが、旅行会社等のツアー参加の回答が約4割あった。	● 個別に旅行の手配をした方（FIT）が過半数を占めている。
	滞在日数（平均）	● エリア内平均滞在数が8泊。	● エリア内平均滞在数が1泊。
	旅程	● 八戸スタートが大半を占め、ゴールは八戸、宮古、気仙沼、仙台が多い。また、旅行者は全国を広範囲に移動している。	● スタート・ゴールが同地点が多い。主に、東北地方を主に移動している。
3. トレイル体験	期待してきたこと	● 「自然・風景」「トレイルを歩くため」が多いが、「復興ストーリー」「歴史や文化」「地域の人々との交流」等、多岐にわたっている。	● 「自然・風景」「トレイルを歩くため」が多いが、「温泉」「食事」を目的とした来訪もうかがえた。
	良かった点	● 「自然・風景」が良かったとの回答が9割を超えている。	● 「トレイルの歩きやすさや整備状況」、「自然・風景」が多い。
	困った点	● 特にないが過半数を占めている。	
	全体的な感想	● 景観の良さ、復興のストーリーに関するコメントが多い。	● 景観に関するコメントが多い。
	情報収集	● 「Michinoku Costal Trail Community」の閲覧が多い。	● 「安達太良・吾妻自然センターのサイト」閲覧が多い。
	相対評価	● 国内では、熊野古道、中山道の評価が多かった。海外では、Pacific Crest Trail（米国）、Overland Track（タスマニア）等、回答が多岐に亘った。	● 日本やアジアのトレイル経験が中心であった。

II. 調査等の内容

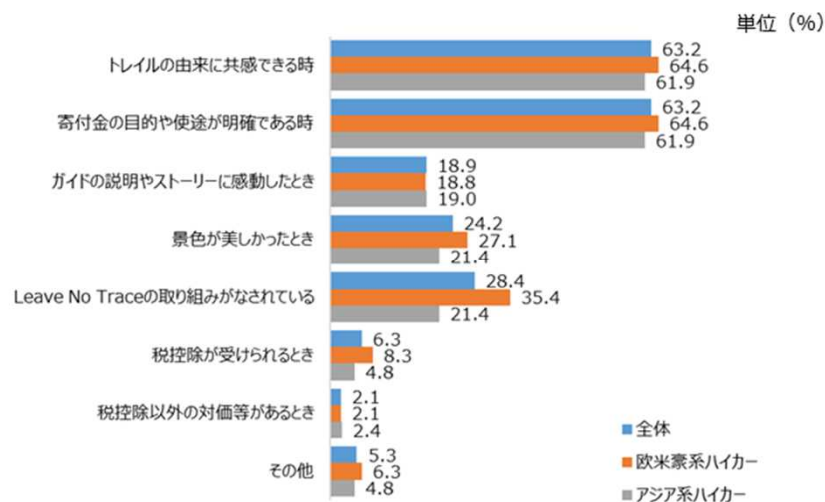
1. 外国人旅行者ニーズ等調査

(6) 調査結果の概要

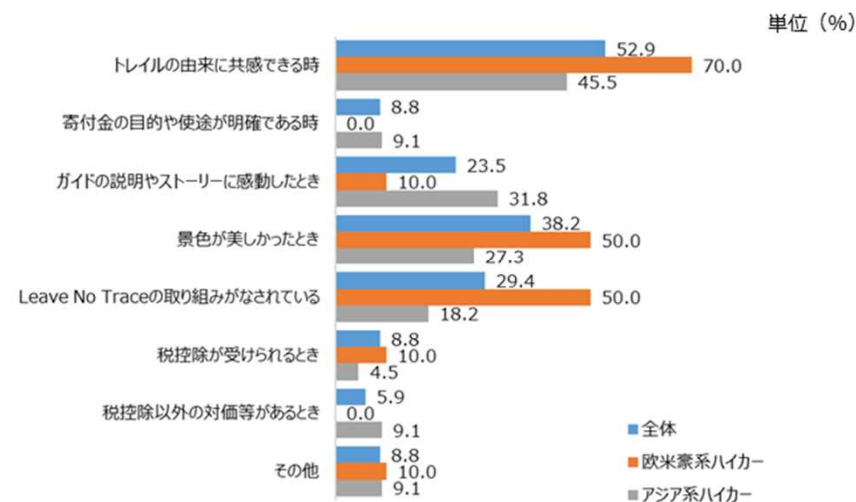
検証事項		検証結果	
		「みちのく潮風トレイル」エリア	「磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル®」エリア
4. 経済効果	支出額（平均）	● 滞在期間が長いいため現地での支出額が多く、平均額は約20万円であった。	● 滞在期間が短い事情等もあり、平均支出額は約6万円であった。
5. トレイルへの寄付行動や考え	寄付文化の有無	● 本設問において「分からない」以外の回答者数は、「みちのく潮風トレイル」エリア51人、「磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル®」エリア19人であった（両エリアとも有効回答数の半数を下回っており、設問の趣旨を理解いただくことが難しかったと推察）。	
	寄付経験率	● 寄付経験者が約5割であった。	● 寄付経験者が約3割であった。
	その他の貢献	● 寄付金以外の協力を体験したことがある旨の回答は約6割。ボランティア活動が最も多かった。	● 寄付金以外の協力を体験したことがある旨の回答は約2割であった。
	寄付動機	● 「トレイルの由来に共感できる時」が最も多い。 ● 「寄付の目的や用途が明確である時」も同率で多い。	● 「トレイルの由来に共感できる時」が最も多い。
	寄付金の使途希望	● 寄付の使途は「歩道整備」が過半数。その他、ハード整備のみならず、ガイドや案内スタッフの人件費、Leave No Traceの取り組み、ビジターセンターの運営等ソフト面での活用も3割程度を占める。	

【寄付動機】 どのような時や場合に寄付をされましたか(寄付をしようと思いますか)？ ※複数回答

(1) 「みちのく潮風トレイル」エリア



(2) 「磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル®」エリア



Ⅱ. 調査等の内容

2. ヒアリング調査

○トレイルへの支援に関する海外の事情や、トレイル団体への寄付等の支援を行う場合の決め手となる要素等について、ヒアリング調査を実施した。

(1) 調査地点

① 「みちのく潮風トレイル」 エリア

- ・北山崎ビジターセンター
- ・名取トレイルセンター

② 「磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル®（安達太良）」 エリア

- ・ガイド同行時
- ・あだたら高原スキー場（レストハウス）

(2) ヒアリング対象者・回答者

・外国人：回答者42人

「みちのく潮風トレイル」 エリア：22人

「磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル®（安達太良）」 エリア：20人

・日本人：回答者66人

「みちのく潮風トレイル」 エリア：33人

「磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル®（安達太良）」 エリア：33人

(3) 調査期間

2025年10月～2026年2月



II. 調査等の内容

2. ヒアリング調査

(4) 調査結果の抜粋

寄付 行動

- 外国人旅行者はストーリーテリングによる共感に加え、「Leave No Trace」や「寄付の目的・使途」などが寄付の決め手になっている。

問10. トレイル団体へ寄付をする場合、あなたにとってどのような要素が決め手になりますか？寄付したくなる取り組みや伝え方、仕組みなどについて教えてください。

<論点整理>

トレイルの理念・ストーリーの重要性

1. トレイルの創設理念やコンセプトが明確であること
2. Leave No Trace (リーブ・ノー・トレース) の思想や、その具体的な実践内容が伝わること

共感とコミュニティ志向

1. 山や自然が好き、震災を経験している、地域再生に関心があるなど、共感できる価値観
2. コミュニケーションや仲間意識の醸成

寄付金の使途の明確化と透明性

1. どのように使われるのかが具体的に示されていることが不可欠
2. 寄付の必要性やその背景・現状の説明

寄付のしやすさ・動機付け

1. 電子送金、QRコードなど、複数の寄付方法が用意されていること
2. 寄付した人だけが受け取れる特典

主な意見

アメリカ

- ・ リーブノートレイスの取り組み
- ・ ステッカーやその他のプレゼントなどがあると効果的だと思う。
- ・ 私にとってはコミュニティが非常に重要で、あらゆる能力を持つ人々を受け入れることも同様に重要です。
- ・ もし自分がそのトレイルを利用したり、自分の地域にあるのであれば、私は寄付をしたい。また Leave No Trace やコミュニティ志向のビジョンも大切。
- ・ 資金使途とトレイル団体の活動理念が明確であること
- ・ 寄付することが簡単であることは、非常に重要である。もし、みちのく潮風トレイルがQRをトレイルに設置していたり、募金箱を設置していたら、喜んで寄付する。

オーストラリア

- ・ このトレイルのストーリーは広く拡散されるべき。津波の被害や、その被害からの地域の復興について特に。私は今回このトレイルに寄付をすることができてうれしく思っている。
- ・ トレイルの創設理念、リーブノートレイスの取り組み、活動内容、寄付金の使途、インセンティブ。
- ・ 寄付金の必要性や寄付金の使途を説明すること
- ・ 資金使途（トレイルの整備、トイレの設置など）、寄付した人しかもらえない特典の有無

台湾

- ・ 寄付金の使途
- ・ トレイルの設立理念
- ・ 共感できることが大事だと思う。山が好きとか、震災を経験しているとか。互いに共感できる取り組みならば国境を超えても応援したいと思う。

香港

- ・ トレイルの設立理念、寄付の目的、寄付金の活用方法

タイ

- ・ トレイルの整備や安全性の維持に使われること。

ベトナム

- ・ 私にとっての決め手は、寄付金の使途が明確であり、自然保護やトレイル維持にどのように活用されているかが分かることです。また、トレイルの創設理念や「リーブ・ノー・トレース」の取り組み、具体的な活動内容が分かりやすく伝えられている場合、寄付したいと感じます。さらに、活動報告やフィードバックがあることも重要な要素です。

II. 調査等の内容

2. ヒアリング調査

(4) 調査結果の抜粋

寄付行動

- 日本人は「使途の明確さ」や「活動内容」、「ガイドやビジターセンタースタッフ等からの寄付の呼びかけ」、「愛着があるかどうか」等が寄付の決め手になっていることがうかがえる。

問10. トレイル団体へ寄付をする場合、あなたにとってどのような要素が決め手になりますか？寄付したくなる取り組みや伝え方、仕組みなどについて教えてください。

<論点整理>

寄付金の使途が明確であること

1. トレイルの整備・修復
2. 自然環境の保全
3. ごみ拾い・清掃活動
4. トイレの設置・維持管理
5. 安全性の確保（荒廃防止・事故防止）など

活動内容がわかりやすく伝えられていること

1. 実際に行っている整備活動や保全活動の内容の提示
2. 作業の様子、整備後の変化、成果報告など

トレイルの創設理念・ミッションへの共感

1. トレイルの創設理念・背景
2. 「次世代により良い環境を残す」という考え方
3. Leave No Traceの実践

自分との関係性・愛着

1. 自分がよく利用するトレイルであること
2. 行ったことがある場所であること
3. 出身地・思い入れのある場所であること
4. 知り合いや仲間が関わっているトレイルであること

主な意見

日本人

- ・ トレイルの整備やごみ拾いに使ってくれるなら寄付したい
- ・ 活動内容をわかりやすく提示すること。特典があると良い。
- ・ 私はこれまで個人的に寄付をしたことはありませんが、もし寄付をするとしたら、そのトレイルの創設理念やミッション、そして環境をより良い状態にして次世代に残すという考えに動機づけられると思います。寄付をする前に、自分が何のために寄付をしているのか、そしてその寄付金がどのように使われるのかを理解することが重要だと感じます。
- ・ トレイルの創設理念、ガイドのミッション、寄付金の使途
- ・ 寄付の目的が明確であり、使途がはっきりしていれば良いと思う。
- ・ トレイルに参加した時の声掛け
- ・ 寄付金の使途がはっきり分かるもの
- ・ 寄付への理由と寄付金の用途の明確さ
- ・ スキーのシーズン券を購入しており、安達太良山は身近な存在。そういう意味で、安達太良山の環境保全に関心があり、何か協力したいという気持ちがある。声がけされたことで、寄付の機会があることを知れた。
- ・ 以前NPOで活動していた経験があるので、NPO活動には寄付したい。スキーで毎年来ているので愛着がある。紅葉シーズンも人気なので保全に務めてほしい。
- ・ 安達太良山にとっても思い入れがあれば寄付したいと思う。トレイル団体の活動内容に賛同できる場合。
- ・ 保全活動にお金が必要だと知り、何かの役に立てばと思った。広報は重要だと思う。
- ・ 声がけされて説明を受けたことで寄付してみようと思った。
- ・ スタッフ等から寄付の必要性について声掛けや説明があればよい
- ・ 自分自身に所縁のあるところや行ったことのあるところ、知り合いのいるところなら寄付したい。
- ・ 山を整備する考え方には賛同できる。一緒に活動している仲間がいること。
- ・ トレイルのことをよく知らないと寄付したい気持ちにはならない
- ・ 利用者負担が必要。
- ・ 入山料として受益者が負担するようにすれば
- ・ その土地に愛着を持っているか？（友人や地域のひととのふれあい）
- ・ 出身地が安達太良のため思い入れがある。自然を維持して若い世代にも続いてほしい。そのような取組であれば寄付したい。

II. 調査等の内容

3. 寄付金を募るための調査

○ ガイドやビジターセンタースタッフ等を通じて、外国人及び日本人に寄付を募るための調査を行い、旅行者の寄付に対する意向を確認した。

(連携先(みちのく潮風トレイル関係自治体協議会、二本松市)の協力により、寄付金を募るための調査を実施)

(1) 調査対象エリア

- ・みちのく潮風トレイルエリア
北山崎ビジターセンター
大船渡温泉
碓石海岸インフォメーションセンター
名取トレイルセンター
- ・磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル® (安達太良) エリア
あだたら高原スキー場
安達太良・吾妻 自然センター
mt.inn (マウントイン)



(2) 調査対象：60人以上

外国人旅行者40人以上

日本人旅行者20人以上

※「みちのく潮風トレイル」エリアおよび「磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル® (安達太良) エリア」において寄付を呼び掛けた人の合計であり、寄付に応じてもらえなかった人を含む。

(3) 調査方法

ア. ガイドやビジターセンタースタッフ等による支援を募る目的や用途等を説明した上で、寄付を呼びかける方法

寄付金收受方法 → 【パターン1】クレジットカード(ペイふる端末)、【パターン2】現金

イ. ポスターで寄付を呼びかける方法(ポスターには、支援を募る目的や用途等を説明を明記)

寄付金收受方法 → 【パターン3】現金(募金箱)

(4) 調査期間

2025年10月～2026年2月

II. 調査等の内容

3. 寄付金を募るための調査

(5) 調査結果

○ ガイドによる説明やストーリー性のある情報提供など、対話や共感を伴う呼びかけは、寄付行動につながりやすい。一方で、単なる募金箱の設置のみでは支援が限定的となる場合もあり、伝え方の工夫が不可欠である。

○ 日本人と外国人を比較すると、外国人からの寄付金額の方が高い結果となった。

全体結果概要





パターン	寄付を募るための方法	寄付金收受方法	額の項目	寄付金額（円）			
				みちのく潮風トレイル		磐梯・吾妻・安達太良 ボルケーノトレイル®	
				外国人	日本人	外国人	日本人
1	ガイド等による寄付の呼びかけ	クレジットカード等 (ペイふる端末)	平均額	4,643円	実績なし	3,333円	1,000円
			最高額	15,000円	実績なし	5,000円	1,000円
2	ガイド等による寄付の呼びかけ	現金	平均額	6,000円	1,344円	30,000円	486円
			最高額	10,000円	5,000円	30,000円	1,550円
3	ポスターによる募金周知	現金 (募金箱)	合計額	2,300円		2,197円	

II. 調査等の内容

4. 先進事例等の調査

○ 本調査の参考となり得る国内外における寄付事情や先進的な取組事例等について調査を行った。

調査対象先および調査方法

調査対象先	対応者	訪問者	調査日	面談の様子
1 一般社団法人倶知安観光協会 サンスポーツランドくっちゃん 北海道虻田郡倶知安町字樺山4 1-5	事務局長 鈴木 紀彦 様	国土交通省 東北運輸局観光部国際観光課 課長補佐 穴戸、係員 鈴木 七十七リサーチ&コンサルティング(株) 主席研究員 木村、主任研究員 齋藤	令和7年 10月21日(火)	
2 NPO法人 信越トレイルクラブ なべくら高原・森の家 長野県飯山市照岡1 5 7 1-2 3	事務局長 大西 宏志 様 事務局長 平出 隆彦 様	国土交通省 東北運輸局観光部国際観光課 課長補佐 穴戸、係員 小山田 七十七リサーチ&コンサルティング(株) 主席研究員 木村、主任研究員 齋藤	令和7年 11月5日(水)	
3 一般社団法人 南木曾観光協会 妻籠観光案内所 長野県木曾郡南木曾町吾妻2196-1	事務局長 保庭 豊己 様	国土交通省 東北運輸局観光部国際観光課 課長補佐 穴戸、係員 小山田 七十七リサーチ&コンサルティング(株) 主席研究員 木村、主任研究員 齋藤	令和7年 11月6日(木)	
4 Appalachian Trail Conservancy The Harpers Ferry Visitor Center 799 Washington Street, Harpers Ferry, WV 25425	Ms.Jeri Ward, Chief Growth Officer Mr.Jason Kozlowski, Senior Director of Engagement Operations	七十七リサーチ&コンサルティング(株) 主任研究員 齋藤	令和7年 12月2日(木)	
5 The Ramblers' Association		デスクリサーチのみ		

II. 調査等の内容

4. 先進事例等の調査

調査結果の
抜粋

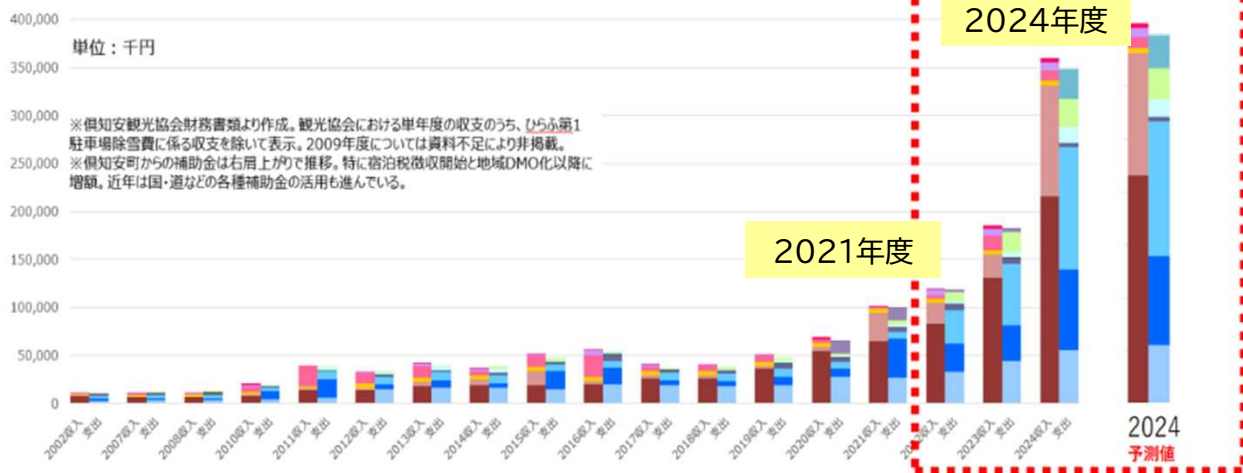
事例1：宿泊税、旅先納税、外国人旅行者からの寄付等、多岐に亘る観光財源を活用した観光施策の展開【一般社団法人倶知安観光協会】

- (一社)倶知安観光協会の2024年度予算は約3.6億円であり、2021年度の予算規模から3年間で3倍以上である。同協会の財源は、①宿泊税(2019年11月導入、国内初の定率性)、②旅先納税(2021年導入、5年連続全国1位の税収)、③視察受け入れの有料化、④デジタルサイネージの広告収入等となっている。用途は二セコエリア(ひらふ地区)の二次交通整備等の受入環境整備、コンテンツ造成、観光人材育成等に充てられている。
- 上記に加えて、2024年12月からは、訪日外国人旅行者への寄付を募る「Protect the pow NISEKO(Donate & Go)」を独自事業として開始。本事業による外国人旅行者からの寄付は、倶知安観光協会の独自財源となり、宿泊税等を原資とした事業では実施できない事業や、年度を跨ぐ事業、環境負荷を軽減する等の事業に活用されることとしている。
- 旅先納税(日本人向け)、Protect the pow NISEKO(外国人向け)による寄付を募るに際しては、マーケティングを強化し、SNSによるデジタル広告を活用しながら進めている。

① 倶知安観光協会の予算の推移

倶知安観光協会収支の推移

※倶知安観光協会財務書類より作成。観光協会における単年度の収支のうち、ひらふ第1駐車場除雪費に係る収支を除いて表示。2009年度については資料不足により非掲載。
※倶知安町からの補助金は右肩上がりで推移。特に宿泊税徴収開始と地域DMO化以降に増額。2021年度からは特に各種補助金の活用が進んでいる。



(出典) 一般社団法人倶知安観光協会より

② 旅先納税

- 旅前・旅先でスマートフォンから簡単に寄附ができ、返礼品として寄附額の30%分に当たる、導入地域の加盟店で利用可能な電子商品券を、返礼品として即時に受け取ることができる「ふるさと納税」の仕組み。
※株式会社ギフトの登録商標
- 寄附をすると翌年の税金控除が受けられる。
- 全国107自治体で導入 (2025年7月現在)

倶知安町は2021年導入以来、
5年連続旅先納税額が全国1位

II. 調査等の内容

4. 先進事例等の調査

調査結果の
抜粋

事例2：旧中山道 無料休憩所における“チップ型”募金箱の設置 【公益財団法人 妻籠を愛する会】

- 馬籠宿と妻籠宿を結ぶコース途中に設けられている無料休憩所を運営する(公財)妻籠を愛する会にて、来訪者に休憩場所、お茶、飴を無償提供。外国人旅行者の来訪が大半を占めている(2024年度は外国人比率76%)。
- 休憩所内のテーブルに設置されている募金箱には、年間約300万円の寄付が集まっており、寄付金の使途が休憩所の運営に用いられていることが明確に伝わっており、一層の理解が得られていることがうかがえる。
- 募金箱に添えられている案内は、英語は寄付への感謝のみであるが、日本語では自力で無料休憩所を運営している実態や寄付金の使途等、詳細な説明が記載されており、両者において説明方法が異なっている特徴もうかがえる。



長野県と岐阜県の県境を跨ぐ、**旧中山道の馬籠宿（岐阜県中津川市）～妻籠宿（長野県南木曾町）**間のおよそ9kmの峠越えハイキングコース



妻籠宿

① 峠の中腹に唯一設けられた無料休憩所（番所跡）の様子

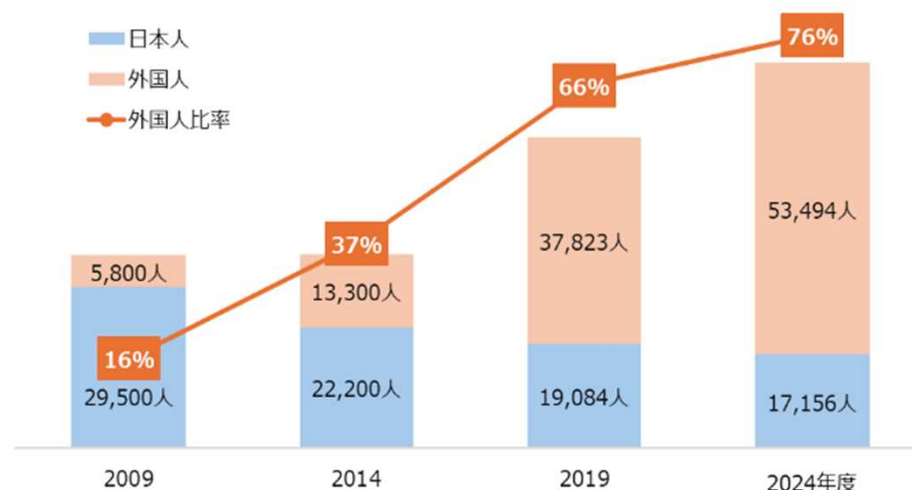


◀【外観】
数多くの外国人観光客が軒下等で休憩している。



▶【内観】
テーブルに置かれたお茶や飴が、セルフサービスで無償提供されている。

② 無料休憩所（番所跡）の利用者数の推移



(出典) 公益財団法人妻籠を愛する会の公表資料より

II. 調査等の内容

4. 先進事例等の調査

調査結果の
抜粋

事例3：ボランティアが主体となったトレイル整備 【NPO法人 信越トレイルクラブ】

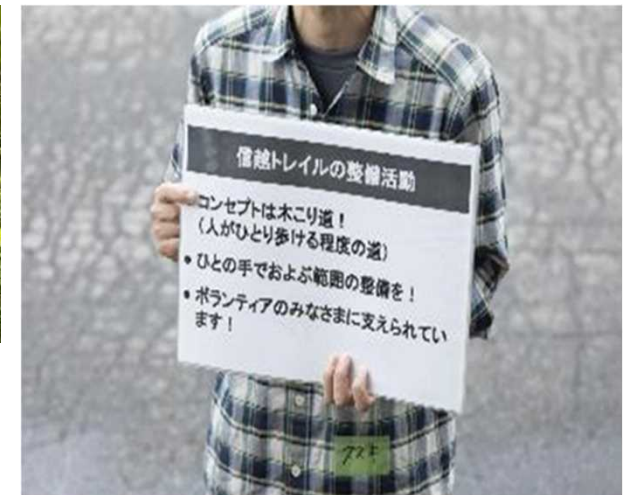
- 信越トレイルは2005年に50kmのトレイルとして開通し、2008年には80km、2021年には関田山脈から苗場山頂に至る110kmのトレイルとして運用。NPO法人信越トレイルクラブは2003年に設立。
- 信越トレイル開通前に、アパチアン・トレイルの調査を行い、全長3,500kmのトレイルを31のボランティア団体が各区間の整備を行う態勢は、信越トレイルのモデルとなっている。
- 信越トレイルの整備活動の多くはボランティアによって行われている。2004年よりボランティアを中心とした整備が本格的に始まり、2024年度は延べ約400人のボランティアが整備に参加した。
- 2019年からは、国有林内のトレイルを整備・保全するため、ハイカー(受益者)にも費用負担してもらう「整備協力金」(任意)を導入。一人当たり1,000円以上の協力を募っている。

① 信越トレイル コース図



(出典) NPO法人信越トレイルクラブより

② ボランティアによるトレイルの整備活動の様子



◀ 信越トレイルは、長野県と新潟県の県境に連なる関田山脈から苗場山麓を縫うように続く、全長110kmのロングトレイル。

標高は約1,000m前後で、10セクションに分かれている。親鸞聖人の布教の道、上杉謙信が川中島の闘いに向かった峠越えなどの歴史的背景、ブナ林や豪雪地帯の自然が融合しているトレイルコース。

II. 調査等の内容

4. 先進事例等の調査

調査結果の
抜粋

事例4：ファンドレイジング専門部署の創設 【The Appalachian Trail Conservancy (米国)】

- アメリカ三大トレイルの1つ、The Appalachian Trail Conservancy(ATC)の運営は、連邦資金頼みの構造から寄付主体の財政構造へと転換を図ることに成功(連邦予算の遅延や、縮小に悩むことがなくなった)。
- 現在、寄付の9割はトレイル沿線の住民からによるもの。100年続くトレイルを誇りに感じており、その保全は住民にとってとても名誉なこととされている。
- 特に、創設100周年を機に**ファンドレイジング専担部署を強化し、寄付者との積極的なコミュニケーションに着手。寄付金は3倍以上に拡大した。**

名称：The Appalachian Trail (アパラチアン・トレイル)

場所：米国 (アパラチア山脈)

総延長：約3,536km (世界最長)

来訪者：[毎年300万人以上](#)

特徴：●「パシフィック・クレスト・トレイル」、「コンチネンタル・ディバイド・トレイル」と並んで、[アメリカ三大トレイルの1つ](#)。スプリング・マウンテン、ブラッド・マウンテン、マカフィー・ノブなど多数の名所が点在する。

●踏破するには、通常5～7か月程度かかると言われるが、毎年3,000人程度の踏破者がいるとされる人気のトレイル。

●6つの国立公園、8つの国有林があるため、東部アメリカでも最も多様な生態系が存在し、2,000種以上の植物、300種の鳥類、80種の哺乳類を含む。

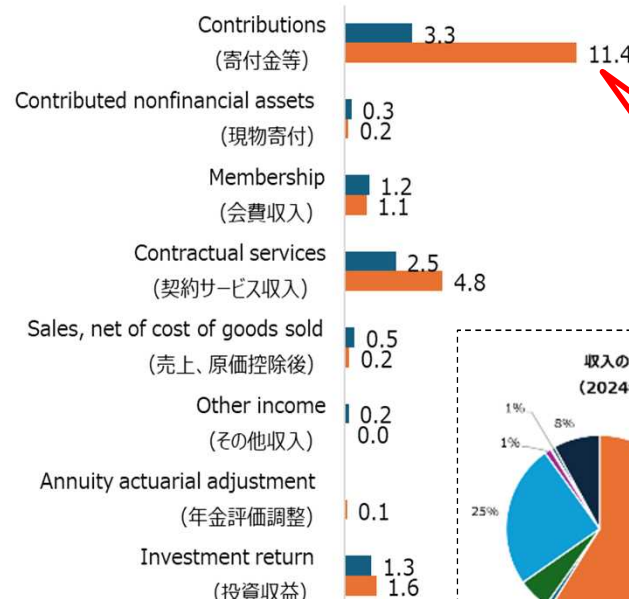
●1923年の初区間開通から[地域コミュニティや環境保全運動と密接に結びついて発展した経緯](#)があり、自然・健康・精神文化に影響を与える存在。



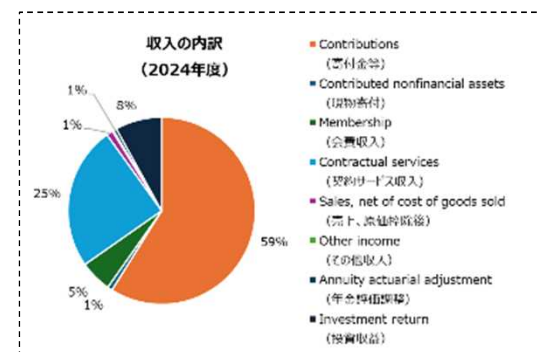
写真：The Appalachian Trail Conservancy公式ウェブサイト

①The Appalachian Trail Conservancy (ATC) の収入構造

総収入 ■ 2019年：9.3m\$
■ 2024年：19.1m\$



過去5年間で
寄付金が3.4倍に



II. 調査等の内容

4. 先進事例等の調査

調査結果の
抜粋

事例5：外部団体・企業等の力を借りたファンドレイジング活動 【The Ramblers' Association（英国）】

- The Ramblersは独立した慈善団体であることから、その活動は寄付や会費、独自の事業収入によって賄われている。英国では、公的資金（税金等）で慈善活動を支えることに対して慎重である反面、市民がその活動を支えるという考え方や文化が根強い。
- The Ramblersには10万人規模の会員と2.5万人のボランティアがあり、草の根の運動として自主的に活動が営まれている。
- 会員によるチャリティーイベントや外部団体主催のウォーキングイベントのほか、ウォーキングアプリ、ショッピングサイト、ロト（宝くじ）サイトなどと提携し、その収益の一部が分配され、The Ramblersの活動を支えている。

名称：Footpath（rights of way）※歩行者専用道の呼称

場所：英国

総延長：約225,000km

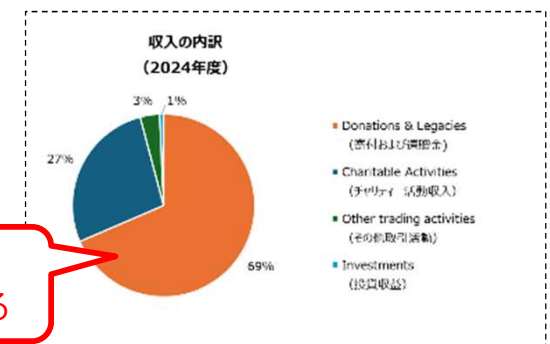
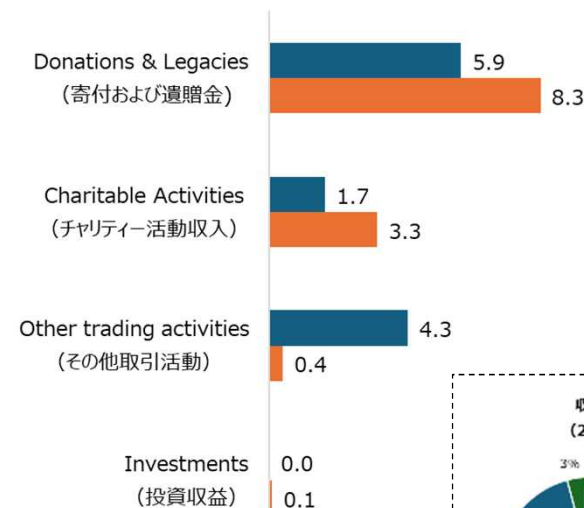
- 特徴：●英国初のトレイルとして知られる「ペニン・ウェイ」や自然景観の美しさから人気の高い「サウス・ウェスト・コースト・パス」などがある。
- 産業革命以降、私有農地の拡大による通行路の閉鎖が相次ぎ、「歩行権」を主張する市民との対立が激化。1949年にフットパスが法的に認められ、フットパスであれば私有地でも合法的に歩行可能となったことから、全国にフットパスが整備されることとなった。
 - rights of way（権利通行路）のうち、「徒歩のみ」許された経路を「フットパス」と呼び、自転車や馬での通行が許された「ブライドルウェイ」と区別される。
 - 権利化されるはるか昔からフットパスは存在し、農村や教会、村を結ぶ生活路として使われており、英国の田園文化を象徴する存在。



写真：The Ramblers' Association公式ウェブサイト、他

① The Ramblers' Associationの収入構造

総収入 ■ 2019年：11.9m £
■ 2024年：12.2m £



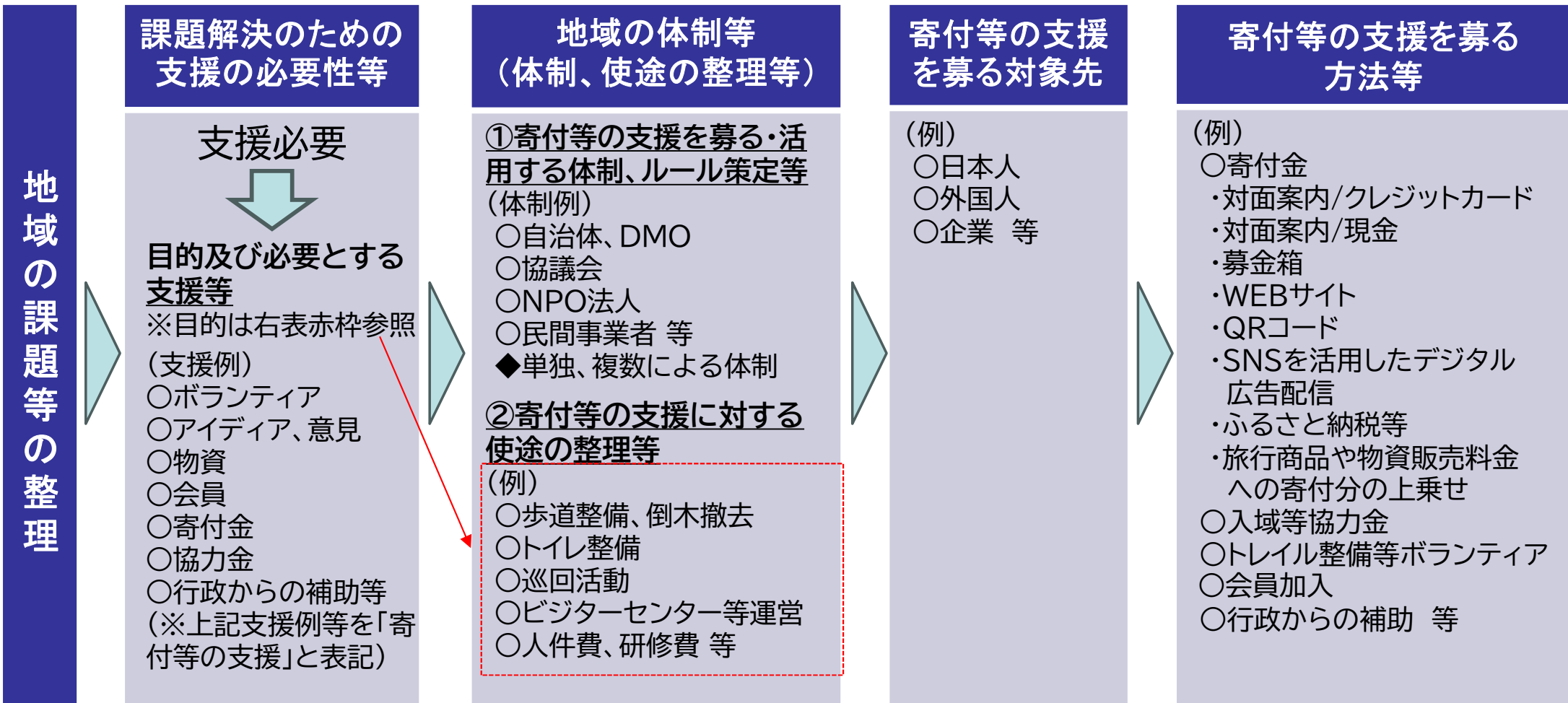
寄付金が
約7割を占める

II. 調査等の内容

5. 寄付金の活用による観光地づくりに向けたモデルの構築

○ 本調査におけるモデル構築は、地域の実情や課題に応じて、検討すべきことを一つずつ整理して体制等を構築していくことであると整理し、下記に「モデル構築に向けた検討・整理事項例」をまとめた。

モデル構築に向けた検討・整理事項例



II. 調査等の内容

6. 地域のトレイル等関係者向けセミナーの開催

○ 本調査結果や作成したモデルを共有し、横展開を図るために、東北地方のトレイル関係者、自治体、DMO(観光地域づくり法人)等を対象にセミナーを開催した。

(1) 開催概要

- ・ セミナー名：旅行者等からの支援を活かした魅力あるトレイルを考えるセミナー
- ・ 日時：令和8年3月6日(金) 13:30～16:00
- ・ 参加方法：Teamsウェビナー及び会場
(東北運輸局 仙台第四合同庁舎 2階会議室)
- ・ 申込人数：103名
オンライン参加：82名
会場参加：21名



基調講演を行う
東京大学大学院 山本准教授



調査地域からの報告を行う
名取市丹野係長、NPO法人みちのくトレイルクラブ 相澤事務局長



調査地域からの報告を行う
合同会社歩く東北研究所
後藤代表社員



調査結果報告を行う
東北運輸局 宍戸課長補佐



パネルディスカッションの様子

(2) プログラム

1. 開会 東北運輸局 観光部長 長澤 秀博
2. 基調講演
テーマ：「歩くことのカ ～トレイルがつなぐ人・風景・経済～」
講師：東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授 山本 清龍 氏
3. 調査結果報告等
 - ① 調査概要説明
 - ② 調査地域からの報告
 - ・ みちのく潮風トレイル
 - ・ 磐梯吾妻安達太良ボルケーノトレイル® (安達太良エリア)
 - ③ 調査結果報告

～ 休憩 ～

4. パネルディスカッション

テーマ：「東北地域の魅力あるトレイルを目指した今後のあるべき姿や方向性について」～必要とされる地域、企業、旅行者等からの支援及び活用に向けた効果的な取り組みについて～

登壇者：

- ・ モデレーター：東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授
- ・ パネリスト：NPO法人みちのくトレイルクラブ 事務局長
合同会社歩く東北研究所 代表社員
出羽三山神社 森林技監
日本航空株式会社東北支社 事業部部長
国土交通省東北運輸局 観光部次長

山本 清龍 氏
相澤 久美 氏
後藤 光正 氏
伊藤 信 氏
高橋 秀次 氏
木内 俊典 氏

5. 閉会

Ⅲ. まとめ

旅行者等に支援を募る際に、理解が得られるための有効な取組として考えられること

今般の調査を通じて、トレイル等の持続的発展に向けて、旅行者等に支援を募ることは各地で行われており、それぞれの地域で目的や用途等を定めながら、ボランティア、協力金、旅先納税、寄付金等、様々な支援を募り、活用していることがうかがえた。

また、旅行者等からの支援を活用することで、受入環境整備等が一層進み、旅行者の満足度向上につながっている。

旅行者等に支援を募るにあたっては、旅行者等から理解が得られるようにすることが重要であり、そのために必要と考えられる取組等を以下にまとめる。

① 支援を募るために必要な事項

当該トレイルにおける各種取組を多くの人々に知って・体験していただき、愛着を深め、自ら参画して地域やトレイルを守る等の当事者意識を醸成していくことで、将来のトレイルへの支援に繋がると考えられる。

支援を募るに際して、地域側では前段階として以下について整理等する必要がある。

- 1) 地域一体による取組の実現に向けた地域側の体制や方向性等の整理
- 2) 発信内容の整理（理念、活動内容、必要とする支援・目的・用途等）
- 3) 知っていただく、体験していただく等の機会創出、継続した活動

② 外国人旅行者への対応

- ・ 海外におけるトレイル団体等への支援に対する習慣や意識の高さは、総じて日本より進んでいることがうかがえた。
- ・ そのような背景を持つ外国人旅行者に対して、当該トレイルの理念、寄付の目的や用途の明確化、Leave No Traceの実践等を整理しながら伝えることで、支援に対する一層の理解が得られるのではないかと考えられる。
- ・ ビジターセンターやガイド等による案内は、案内のみならず、トレイルの理念等を伝えやすい状況下にあるので、この機会を活用して積極的に支援を募ることは有効と考えられる。

③ 日本人旅行者への対応

- ・ 外国人旅行者と比べてトレイル団体等への支援に対して経験が浅い傾向にあるが、一方で、トレイル歴が長い方ほど支援の必要性について熟知されている傾向にあるので、外国人旅行者と同様にトレイルの理念や、寄付の目的や用途等を明確に伝えながら、積極的に支援を募ることは有効と考えられる。（※次頁参照）
- ・ また、トレイル歴が浅い方に対しては、当該トレイル団体の活動内容、支援の目的や用途等をしっかりと伝え、知っていただくことが重要であり、一例として、ふるさと納税（旅先納税）等のインセンティブを活用したり、ビジターセンタースタッフやガイド等から呼びかけたり、初心者でも参加可能なボランティア活動を募ったりする等して、認知度を高めるためのきっかけづくりから始めることは有効と考えられる。

Ⅲ. まとめ

旅行者等に支援を募る際に、理解が得られるための有効な取組として考えられること

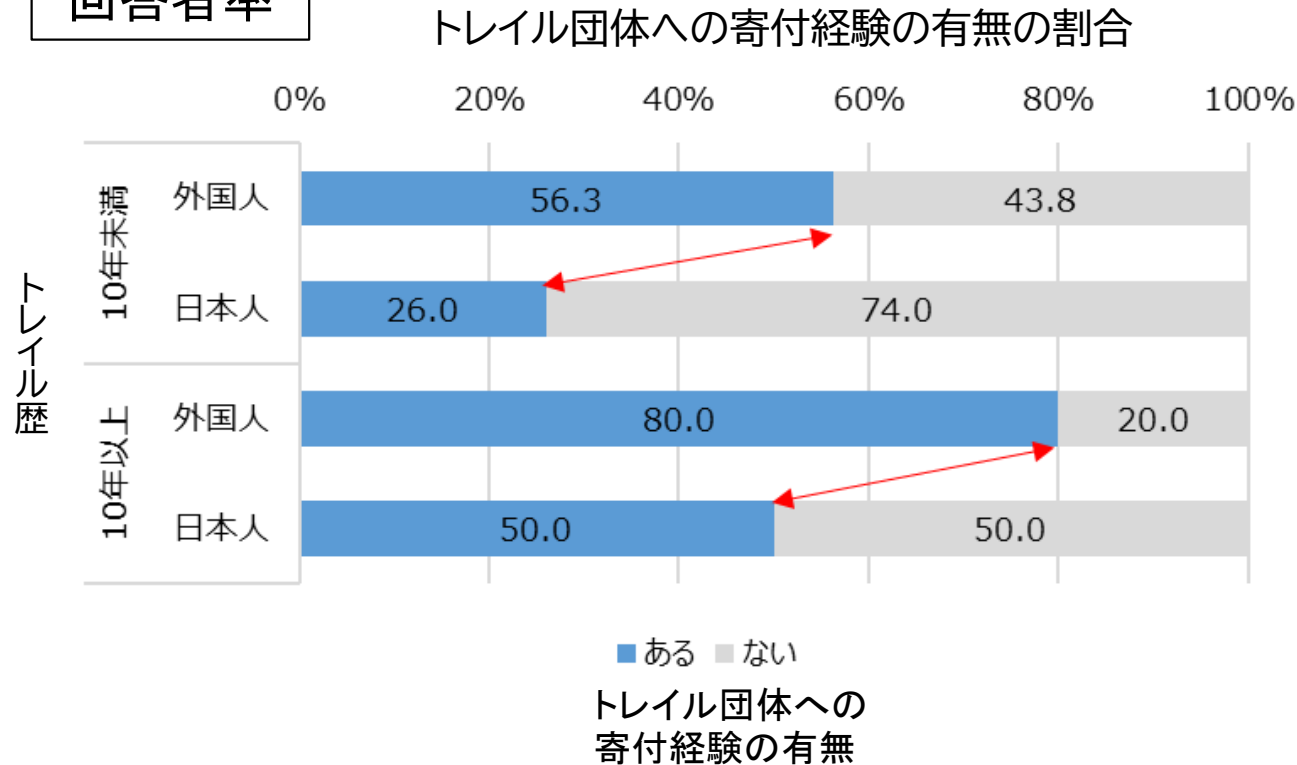
検証

前記のまとめについて、以下のヒアリング調査結果からも同様の傾向を導くことができる。
 →外国人のほうが日本人よりも寄付に慣れており、寄付経験が多い。
 →トレイル歴が長い者のほうが寄付経験が多い。

ヒアリング調査結果より

【問2】国籍・地域（外国人・日本人）×【問4】トレイル歴×【問5】トレイル団体への寄付経験の有無

回答者率



回答者数

トレイル団体への寄付経験の有無

トレイル歴		合計	ある	ない
10年未満	外国人	16	9	7
	日本人	50	13	37
10年以上	外国人	20	16	4
	日本人	12	6	6